





嘉

四月四日定稿 同六日一板了

惠頓氏萬國公法 卷之六

月志自

惠頓氏萬國公法卷之六

第三篇

平時各國交際インテリナチヤチンテイトノ權利

第一章

公使往來ノ權ライトツフレンゲレヤン

公使外國駐劄ノ故

第二百六條 近世各國開化ノ進步ヲ徴スルモ
ハ公使駐劄ノ例ヲ設ケタルヨリ著レキハナ
シ夫レ古ハ各國ノ例ヲ按スルニ公使ノ權利ノ
教化漸ク行ハルハ國ニ於テ稍其及ホスヲ見
ルノニ實ニ中古ニ在テハ公使駐劄ノ例ヲ認ム

モ、少ナク一千六百年代ニ至リ始メテ全ク此
制ヲ確定ス蓋シ維士發里^{ウエストミンスター}ノ和議以降歐洲各國
公使駐劄ノ制ヲ定メタルニ由ル所トス此制
定メタルハ七竟各國ノ通商交際日ニ有ニ盛ナ
ルニ後ニ交際上ノ事務愈々多キヲ以テ其間ニ
起ル所ノ事ヲ理メ或ハ互ニ國力平均ノ事ヲ
管制セシメンカ為ントス是レ公使往來ノ權利
ヲ定メテ公法ノ一部ト為ス所以ナリ

第二百七條 凡ソ自主國互ニニ交際和好ヲ守
ラント欲セハ則チ公使ヲ遣リ公使ヲ受ルノ權利

權利

アラサルナレ然レモ亦深ク公法ノ真理ヲ致
ル時ハ迭ヒニ使ヲ遣リ使ヲ受ルモ若シ他國之
ヲ欲セサレハ敢テ強ル能ハサルナリ唯各國ノ
友誼習慣ニ因テ交際往來ノ義務ト認ルニ過キ
又故ニ亦セス各國守ル可キノ義務ト為スニ非
ズ之ヲ行フハ各國交際ノ事務交情ニ從テ宜シク
変セサレ得サルナリ

第二百八條 屬國或ハ半自主國ニ至テハ公使
ヲ遣ルノ權全ク其屬スル所倚ル所ノ大國ト相
干係スレ情實ニ從テ定ムレナリ即チ土耳其ノ

公使權
馬文倫

屬國馬喇達マルタヤ、瓦喇加ハラキヤ二邦、如キハ一千七百七十
四年魯士兩國、約定ニ因テ公使ヲ土耳其ノ都
城ニ遣ハシテ事ヲ辦理セシムルノ權アルコトヲ
定メタリ

合盟ノ邦互ヒニ公使ヲ通シ或ハ外國ニ公使ヲ
通スルノ權利ニ至テハ其可吾必ス合盟ノ交情
法制ニ從テ之ヲ定ムルナリ日耳曼聯邦ノ如キ
ハ教邦互ヒニ使ヲ通スルノ權アリ和蘭從前ノ
法制及ヒ瑞西聯邦ノ如キモ亦然リトス然レモ
亞米利加合衆國ノ如キニ至テハ公會ノ應許アリ

内亂時使ヲ通スル
ノ論

ルニ非レハ各邦隣邦ト盟約シ或ハ擅ニ外國ト
盟約聯合スルヲ嚴禁ス即チ此禁例ニ因テ各邦
互ヒニ使ヲ通スルノ原權亦從テ斟酌減制セザ
ルコトヲ得ス

第二百九條 各國使ヲ遣リ使ヲ受ルノ權利アリ其歸權スル所國內何部ニ屬ス可キヤ其國法ニ從テ以テ之ヲ制定スヨリスルニ至ルモノナリ居民自治君主專治ノ如キ國制ニ在テハ通使ノ權率チ君主ニ歸ス又臣主ハシラシキノ國ニ在テハ此權或ハ首領ニ歸シ或ハ國會執掌ニ歸スルモノアリ一國若シ内亂ヲ醸シ王權

三國法省
ヲ争フ時ハ其國權ノ歸スル所固ヨリ其國ノ定
ムル所ニシテ敢テ他國ノ與カレ所ニ非スト
此已ムヲ得ヤル時ハ他國使臣送迎ノ禮ヲ行フ
ニ或ハ新立ノ政府ヲ視テ行フイアリ或ハ先例
ニ照ラレ舊君ヲ視テ行フイアリ或ハ又暫時全
ク往來ヲ傳ムルイアリ是レ皆行テ可キラサル
ナレ又一國ノ屬邦教テ分立スルカ如キハ他國
改メテ其新邦ト交際ヲ問ク可キカ或ハ本國更
ニ一邦ト認ルヲ俟テ後チ使ヲ通ス可キヤ皆時
ノ便宜ニ從テ以テ決定ハ各國此等ノ事ヲ決ス

スルヨリ從テ生スル所ノ條議ヲ避シカ為ノ屢
ニ從前ノ國使ヲ交換レテ事ヲ辦理セシムルナリ
然レ他國ノ名號爵位ヲ與フルイナレ
第二百十條 各國他國ノ公使ニ接待スルニ必ス
守ル可キノ義務ニ非ス故ニ接待ノ法ニ至テハ
皆隨意ニ定ムルイヲ得可シ然レ他一度ニ接待
スル時ハ凡テ公法ノ例ニ照ラレテ公使ノ權利
ヲ得セシメサル可キラス故ニ一國先キニ例ヲ
定メテ已レノ臣民他國ノ臣民ト屬レ他國ノ使
臣ト和シテ本國ニ使スルモノハ之ヲ公使トシ

テ受ケザル^{例ヲ定ムル}モノアリ或ハ己レノ臣民本國ニ回
 ル時ハ本國ノ法律ニ從フ可キノ約ヲ立テ後チ
 接待ノ禮ヲ行フモノアリ或ハ其人接スルニ違
 ラサル所以ヲ説テ以テ接スルヲ拒ムモノアリ
 第二百十一條 公法ノ原則ニ於テハ各國公使
 ノ地位等級ヲ定ムルニ唯其任務ニ因テ定ムル
 ノニ然レバ歐亞近世ノ習慣ニ因テ大ニ此別ヲ
 明カニ区蓋シ此公隔アラサレハ毎ニ各國半端
 ノ原由ト為ルヲ^{免レテ}遂ニ各國雜也納ニ會レテ
 此規則ヲ制定シ其地位等級ヲ分テ四等トス即

チ其別左ノ如シ

- 第一等公使 ^{Ambassadeur} 國使及ヒ羅馬教皇ノ使臣
- 第二等公使 他君ニ使スル特命公使 ^{Plenipotentiaire}
- 第三等公使 他君ニ使スル駐劄公使 ^{Legationnaire}
- 第四等公使 他國ノ外務宰相ニ使スル公使 ^{Ministre plénipotentiaire}
- 第二百十二條 一等公使ハ全ク國君ニ代テ事
 フ行フモノニレテ國君他國ニ親臨スル時ト歟
 待禮格異ナルヲナシ然レバ是レ唯使臣ノ面
 ヲ尊スル所ニシテ其禮義歎待時ニ隨テ古今一
 ナラス又通例ノ使臣ト特任ノ使臣ト稍異ナル

一等公使ノ論

所アリ即チ通例ノ使臣ハ他國駐劄ノ使臣ニ任
用シ特任ノ使臣ハ特別臨時^{事務}任^用ス然レモ特
任ノ使臣亦時トシテ駐劄ノ使臣ヲ兼ヌルコト
レ
第一等公使ヲ遣テストヲ得ルハ國^君主國及ヒ臣
主ノ大國ニ限ル所トス

二等公使ノ宿

第二百十三條 一等公使ノ外他テ君身君位ニ
代ルモノナシ唯公使奉命シテ行フ事ニ就テノ
君ニ代テ其事ヲ管理スニ等公使ニ屬スルモ
ハ特命公使^{エムボイ}臨時特命公使^{エムボイ}全權公使^{エムボイ}臨時特命^{エムボイ}

兼全權公使及ニ羅馬ノ使臣等ヲ云フ

第二百十四條 公使ノ等級各々異ナルトモ其
其職務ニ就テ論スル時ハ一等ト二等ト別ニ異
ナルコトナシ蓋シ兩ナカラ國君ノ信ヲ得テ他君
ニ使スル^モト^モ東^モ一^モ等公使ハ他國ニ使シテ他君
ニ朝シ直チニ面議スルコトヲ得ニ等公使ニ至テ
ハ同シク他國ニ使スルモ唯他國任^信不^レル所ノ外
務宰相ト^事議スルコトヲ得ルノコト見レ一等ト二等
ノ別アル所トス然レモ此別唯公使ノ位階ヲ重
スルニ過キス任職別アルニ似テ其實異ナルコト

ナレ又晩近ノ習慣ニ因レハ各等ノ公使核會ヲ
得テ他君ニ朝レ兩國ノ大事ヲ面議スルヲ得
ルヲアリ

前歐協專ラ禮款ヲ重ニシ他君ニ朝レテ直ニ
面議スルヲ得ルハ唯一等ノ公使ニシテ准ル
時ト雖モ其君トノ口談面議ヲ以テ猶ホ公事ヲ
決スルト為ス可カラズ皇子ニ其臣下外務宰相
ト之ヲ議決シ而シテ外務宰相ヨリ其君旨ヲ各等
ノ外國公使ニ通知スルナリ又各國君主時トシ
テ互ヒニ相會シ面議スル時ト雖モ尚ホ其臣下

三等公使ノ論

再議決定スルヲ得ルナレ然レハ則チ民主ノ國
此ノ如ク行フニ至テハ益スシ理アリトス蓋シ
君主ノ國ニ在テハ君主委任ノ使臣ヲ遣ハシ
以テ國ニ代テ事ヲ議セシムルモ既ニ此ノ如シ
況ニヤ民主ノ國ニ在テヤヤ首領擅ニ兩國ノ大
事ニ就テ他君ト面議スルヲ得ル能ハサレハ丁
第百二十五條 三等公使ニ屬スルモノハ公使
駐劄公使及ヒ他君ニ使スル代理公使ヲ云フ
四等公使ニ屬スルモノハ他國ノ外務宰相ニ使

スル代理公使^{サレドトコル}ニシテ其本國ヨリ特ニ遣ルモノ
アリ或ハ公使在ラザル時暫ラク其職ヲ代理セ
シムルモノアリ

維也納ノ公會ニ因テ各國同等ノ公使^集來ル時ハ
其来著公帑ノ日ヲ以テ先後ノ次序ヲ定ムルコ
ト決定シ此公會以來既ニ一般用ユル所ノ規則
トス又同存ノ公會ニ因テ戚族或ハ他ノ因故ア
ルニ因テ公使ノ尊卑ヲ區別スルトヲ廢止シ各
國ノ公使^均偏倚勿ラシムルトヲ決定ス
一國各等ノ公使ヲ遣來スルノ權アル時ハ其等

級ヲ撰ブニ當テ固ヨリ其國ノ自定スル所トモ
ニ自ラ又一般ノ習慣アラサルヲ得ス即チ互ニ
ノ京城ニ使臣ヲ交遣スルハ同等ノ公使ヲ駐劄
セシメテ^此尊卑勿ラシムルヲ要スルナリ
又一人ノ公使數國ヲ兼ヌル時アリ或ハ數名ノ
公使^一國ニ送ル^一アリ又時トシテ公使一國
ヲ定メス數國會同ノ時各國ノ公使ト相議スル
ノ全權ヲ有スル^一アリ

第二百十六條 領事其他通商ニ管ル官吏ハ元
來他國ノ君主或ハ外務宰相ニ使スルモノニ非

信翰例
トハルケマコトシテ

又是ヲ以テ視テ公使ト為サスル^ス。然レモ巴
巴里國等ニ駐劄スル歐亞諸國ノ領事ノ如キハ
亦視テ公使ト為スナシ

第二百十七條 各等ノ公使其等級ニ應シテ使
臣ノ禮儀權利ヲ受コト欲スレハ必ス本國ノ信
翰ヲ寄セサル可カラス一等ニ等三等ノ公使ニ
於テハ信翰ハ此國ノ君主ヨリ彼國ノ君主ニ寄
セ第四等ノ公使ニ等シテハ此國ノ外務宰相ヨリ
彼國ノ外務宰相ニ寄ルヲ例トス信翰ニ二種アリ
一ハ密翰一ハ開翰トス然レモ率子開翰ヲ用

全權ノ證
ホトトギス

エルヲ例トス而シテ其開翰ヲ用ユル時ハ君主簽
名ニテ國璽ヲ加フルナシ公使ハ必ス正副二翰
ヲ携ヘ先ニ其副翰ヲ彼國ノ外務宰相ニ呈シ以
テ後日朝觀ノ時本翰ヲ彼國ノ君主ニ親呈スルノ便
ニシテ信翰ハ則チ公使來ル所ノ趣旨ト本國ニ代
テ辨スル事ノ必ス信ヲ得可キヲ記載ス
第二百十八條 公使商議全權ノ證ハ信翰中ニ
記入ス其式概子開翰ヲ用ユルナシ又各國公會
ノ時遣發スル公使ハ信翰ヲ寄セス唯全權ノ證
ヲ與フルノミ各國ニ使此證ノ副本ヲ以テ互ニ

公使訓條例

護身狀例

ニ交還ニ或ハ之ヲ盟主ノ手ニ委託ス

第二百十九條 公使ノ訓條ハ其君命アルニ非

レハ他君ニ寄示ス可カラズ全ク公使彼國ニ駐

テ行フ可キ進退如何ヲ訓誨ス必ス秘シテ保

可キ書トス然レモ臨機已ムヲ得サレ時ハ寄

示スルモ亦可ナラサルナレ

第二百二十條 公使他國ニ赴カントスルニ平

時ハ唯本國ノ護身狀ヲ以テ其身ヲ保護ス然レ

モ戰時ニ在テハ即チ駐ル所ノ國院ニ或カ敵國

ト為ルヲ以テ敵國ノ護身狀ヲ得ルニ非レハ必

ス敵ノ疆内ヲ安行スル能ハズ

第二百二十一條 公使他國ニ着到スル時ハ直

チニ彼國ノ外務宰相ニ着到シ報達ス若シ第一

等ノ公使ニ係ル時ハ附屬ノ書記カ或ハ隨從ノ

官吏ヲ以テ之ヲ報達シ而シテ外務宰相ニ信翰

副本ヲ呈附シ同時ニ國君謁見ノ期日ヲ請フ若

シ第二等三等ノ公使ニ係ル時ハ書翰ヲ以テ外

務宰相ニ之ヲ報達シ信翰ヲ呈進スル君命ヲ請

フ若シ第四等公使ニ係ル時ハ同ヨリ信翰ヲ彼

國君ニ寄スルモノニ非ス故ニ書翰ヲ以テ着到

ヲ報シ信翰呈附、為、外務宰相謁見、期日ヲ
諸

公使朝見、例
マウソニス

第二百二十二條 第一等公使ニ對シテハ國君
公見ノ禮ヲ以テ接待ス然レモ此禮今ハ廢止シ
二三等、公使ト目レ、私見ノ例ヲ以テ、公使
延見ノ時即チ國君ニ信翰ヲ呈シ、祝禮^祝ヲ演ヘ國
君亦之ニ慰答シ民主ノ國ニ在テ首領或ハ外務
宰相謁見ノ本異ナルトナシ

公使、文禮
マウソニス

第二百二十三條 各國ノ公使一國ニ使^照レテ互
ニ相征来シ或ハ其駐ル所ノ國ト往来スル皆

公使、權初

禮款アリ然レモ此禮款必竟互ニ、友誼厚情ニ
出ル所ニレテ法律ト為ス、非ス故ニ、公使身
可ヤ、義務ニ非ルナリ然レモ亦此例ヲ守ラサ
レハ蓋シ交際上職務ヲ碍ルノ患アル可シ故ニ
文明國率チ此禮則ツ制定シ各國ノ公使一國ニ
駐劄スル時互ニ、相遵守ス

第二百二十四條 公使他國ニ使シテ其疆内駐
劄中ハ刑事民事共全ク地方ノ管轄ヲ受ルナリ
蓋シ公使ハ其君ニ代テ他國ニ使スル^{モノミン}中、性
君權居位其身ニ移リ全ク犯ス可カラサトノ性

法律

格ヲ備フレハナリ公使地方ノ管轄ニ歸セザル
 所以ハ所謂疆外^{エキトラニル}及フ國權ヲ具フルモノ也
 テ公使他國ニ駐劄スルモ猶ホ早タ已レ、疆内
 ヲ離レザルカ如シ有ニ其公使所有ノ權等ニ就
 テハ皆本國ノ法律ヲ以テス、孩兒他國ニ生ルハ
 モ猶ホ本國ノ人民ト為スナリ又公使地方ノ管
 轄ニ歸セザルハ各國互ニ、共益ニ基ク所ニシ
 テ蓋シ此ノ如キ寬典アラサレハ公使十分已レ
 ノ職ヲ盡クス能ハサレハナリ各國使ヲ遣リ使
 ヲ受ケ送ヒニ本國ノ權ニ販スレハ亦兩國ノ默

國法卷

例外事ヲ論ス

許ニ出ル所トシ公使平時ニ在テハ本國ヨリ與
 フル所ノ護身状アリ我時ニ在テハ駐ル所ノ國
 ヲリ給與スル護身状アリ均ニ已レ、職位ヲ
 證シテ其身ヲ保護スルヲ得んナリ
 第二百二十五條 公使地方ノ管轄ヲ受ケサル
 ハ其妻子、家從、書記、藩僕、動産、公館、等ニ及ホス
 ヲ得公使地方ノ管轄ニ服セスト、魚尾亦爰ニ及
 轄ヲ受ル例外ノ條四アリ
 其一 公使若シ訟^福被アリテ自ラ廳ニ臨ニテ其
 事ニ與カラナイヲ欲スル時ハ即チ地方ノ管轄

國法卷

二 版口サル可カラス

其二 公使原奉其使スル國、臣民ニシテ其國未タ管轄ノ權ヲ棄テザル時ハ、仍ホ其管轄ニ版ス可キナリ。然レモ其國一旦使臣トシテ其人ヲ認メ更ニ其人曾テ臣民タルイテ明言セサレハ、既ニ管轄ノ權絶ス可キナリ。蓋レ一旦使臣トシテ接待スル時ハ兩國ノ間全ク管轄ノ權ヲ行ハサルイテ黙許スレハナリ。

其三 公使其駐ル所ノ事務ヲ兼ル時ハ地方ノ管轄ニ版ス可キナリ。

其四 公使若シ罪ヲ犯シ其駐ル所ノ國安ニ干係ニテ事急ニ迫ル時ハ即チ其人乃チ簿冊ヲ捕拿シテ疆外ニ送出ス。然レモ事急ニ迫ラサレハ先ニ其本國ニ通シテ後チ其人ヲ歸國セシムルヲ例トス。而シテ若シ其君之ヲ肯レセサル時始メテ其人ヲ疆外ニ送出ス。又若シ公使罪ヲ犯スニ其君之ヲ審罰スルヲ辞ム時ハ其人ヲ視テ公敵ト為シ處罰スルイテ得ルナリ。然レモ此處置ヲ是トシテ許ルヌ可キヤ。頗ル決シ難シ古來公使已レハ不任ヲ棄テ、駐劄スル國ノ宮ヲ圖リテ

ル例ヲ参考スルニ未^レ一^ニ定^ム規則ヲ立^テ能^ハ
ハ有^ル此^レ如^キ時ニ臨^ミテ公使ヲ処置スルハ
遂^ニ已^ムヲ得^ス自護^ノ權^ニ歸^セサ^ルヲ得^ス虎
哥^シ云^ク公法ヲ以^テ論^スト時ハ公使犯罪^ノ為
メ死刑ニ處^ス可^クラスト至^レ一^ニ國自護^ノ權ヲ
以^テ論^スト時ハ漫^ニ公法ニ拘泥^シテ我^レ國官
ヲ問^ハス其^レ強^ク准^ルス^ノ理^アル^ト可^クラスナ
リ

第二百二十六條 公使ノ妻子従僕等公使ト同
シク地方ノ管轄ニ歸^セサルノ例ヲ受^ク殊^ニ有^ル

官ノ書記ニ至^テハ本地方ノ管轄ニ歸^セサルナ
リ各國ノ習慣多^クハ公使附屬^ノモノ、名票ヲ
外務宰相ニ送^テ管轄ニ歸^セサルノ權ヲ得^ル
、便^ニス

公使及^ビ其家族^ノ及^ビ附屬^ノ各人ニ至^ルマテ既
ニ地方ノ管轄ニ歸^セサルヲ以^テ此各人ニ涉^ル
事訟罪犯^{アル}時ハ公使即^チ本國ノ法律ニ照^ラ
シテ躬^ラ其事ヲ審^判スルノ權アリ民事ニ至^リ
ハ各國此規則ニ從^フモノ多^シ然^レモ刑事ニ至^リ
ニハ公使從^令ニ審^判處^罰スルノ權アリト至^リ

近世ノ習慣ニ於テハ唯其犯人ヲ拘禁シテ之ヲ
其本國ニ送ルヲ得ル、然レモ亦公使ノ權ニ
因テ或ハ其犯人ヲ放逐スルコトアリ或ハ公使駐
劄ノ國律ニ照ラレテ審斷^{ヲ乞フ}セラルコトアリ皆公
使ノ欲スル所トス

第二百二十七條 公使駐劄ノ疆内ニ在ル所有
ノ動産及ヒ其家屋ハ全ク地方ノ發轄ノ受ルコ
トナレ然レモ所有ノ不動産ニ至テハ地方ノ發轄
ニ歸セサルヲ得公使商賈ト為テ有スル所有
ノ動産或ハ死後扱人ト為テ委託ヲ受ル財貨等

公使地方ノ發轄
ヲ受ルコトハ米普國
國ノ爭論

至テハ花ニ地方ノ發轄ニ歸セサル可カラズ
第二百二十八條 公使家屋ヲ借り其借家約定
ニ執テ云コヲ生スル時其約定ニ依テ家主其財
貨ヲ捕拿スルヲ得可キヤ頗ル爰ニ疑議アリ是
レ近時此事ニ付米國ト普國トノ爭論ヲ以テ即
チ之ヲ了スルニ足ル可シ
元來普國ノ民法ニ於テ貸主ハ借主ニ對シ^{地代}
及ヒ其他約定ニ因テ生スル請求ノ極当トシテ
約期滿チテ後其地面中ニ在ル借主ノ貨物ヲ捕
拿スルノ權アリトス米國公使普國京城駐劄ノ

時普ノト約ヲ立テ家屋ヲ借住ニ然ルニ其約定ヨリ事ヲ生シ家主普ノ即チ國法ニ從テ約期ヲ過テ後チ米國ノ使ニ對シ期限内家屋破損ノ償金ヲ討メシ^{カ為}ト欲^カ即チ拒当トレテ其地面内ニ在ル公使ノ貨物ヲ捕拿スルノ權利アルトテ討求ス干時普國政府之ヲ欺レテ云ク比ソ公法ヲ按スルニ公使ノ貨物ハ地方ノ管轄ニ歸セサルト雖比之ヲ今日ノ事件ニ及ホス可カラス今日ノ事件ハ則チ^{金ノ公使ノ物}拘留捕拿ノ權^金約定ヨリ生スルモノニシテ地方ノ律ニ於テモ亦其權利アル

ヲ公理トスレ此ノ如ク家主ニ貸主ノ權利ヲ與フル時ハ既ニ借主ニ對シ^{借料}地^{借料}及ヒ約定ヨリ生スル百般ノ請求ヲ為スノ權利アリトシ即チ法律ニ於テ負債拒当トレテ地面中ニ在ル借主ノ百貨ヲ捕拿スルトテ許レルタリ

第二百二十九條 米國政府普國政府ノ熱決ヲ論シテ云ク抑ハ普國政府ニ於テ今日ノ事件ヲ決定スル所ハ全ク普國に留メ各國公使ヲ^普本^普民ト目視シ貸主ヲシテ借主ノ貨物ヲ捕拿レ以テ負債ノ拒当ト為スノ權利ヲ得セシムルモノナ

米國政府
議論

司法

唯普國茲之決スル所以ノモ、ハ約定ノ一事
ニ基ク、此、如キ例未タ曾テ公法名師、論
スル所ニ非ス通則外、例ハ古來既ニ公師ノ論
スル所ニシテ皆人ノ知ル所トス此、如キ例外
ノ事未タ曾テ行ハル、ヲ見ス公師ノ叢ニ論破
スル所トス又一國ノ一例ヲ以テ萬國普通、大
法ヲ破リ以テ新例ヲ興スニ足ル可カラス
普國及シ各國、法律ニ於テ多分借家約定ハ若
シ其借主借料其他地面中、破換ヲ償ハサル時
ハ貸主即チ其貸ヲ捕拿拘留スルノ權アリトス

然レモ此權利ヲ得セシムルハ固ヨリ貸借雙方
同國ノ人^{同國}時ニシテ他國ノ公使ニ對シテ
一比例ヲ及ホス可カラズ公使ノ居館ハ他ヨリ
侵ス可カラサルノ位格アリ其人其貸地方ノ受
轄ニ歸セズ本國ノ命アル、外約定トモ決シ
テ他ヨリ強迫スルノ謂レアル可カラズ又借主
ニ對シテ自談ヲ索メタルニ非ズ直チニ借主、
貨物捕拿、權利ヲ與フ是レ同國ノ人^{同國}ハ
素ヨリ責ムル所ナレトモ是レ外國公使ニ對シテ
ハ此、如ク行フヲ得ヤンナレ

例へハ今ス使、約定ヲ以テ其身ノ常費ヲ償フ
為誓證書ト視ル時ハ即チ其證書ヲ持ッ者若シ
約、如ク其費用ヲ償ハサレハ遂ニ其人ヲ捕拿
スルノ權マシ、定ニム使、貨資ニ對シ其及轄ヲ
受ケサレ一權ヲ破レテ得ル時ハ公使、萬權
均シク破ル能ハサレモノナシ、公使、一權ヲ破
ルハ獨立ノ權初ヲ奪フニ異ナラス、公使ノ財貨
一品ヲ奪フヲ得ル時ハ萬貨亦奪フ能ハサレモ
ノナシ其妻子ニ至ル迄テ盡ク奪テ遂ニ活路ヲ
絶ツテ得可キナリ又事ニ執レテ公使ノ私物

虎毒必食

ヲ奪フヲ得ル時ハ官物モ異ナラス遂ニ屠殺ニ
至ル迄テ合セテ皆奪フ能ハサレモノナシ
第二百三十條 員債ノ為メ公使ノ貨物ヲ捕拿
スル能ハサレトハ即チ公使即虎哥氏ノ論スル所
ヲ以テ明カナリ、同氏云ク比ツ公使ノ貨物ハ裁
聽ノ命令或ハ君命ニ執レテ漫リニ極当トシテ
捕拿ス可キモノニ非ス、是レ實ニ我カ確證トス
ル所ナリ、蓋シ公使ハ其人其貨也、他ヨリ侵ス
可カラサレハナリ、善シム使員債アレハ債主懲
懲、其償却ヲ討求シ而シテ若シ公使之ヲ拒メハ

其時始ニ其本主ニ請テ之ヲ討ムルヲ例トシ
我等今名郎虎哥氏ノ論スル所ヲ以テ即テ公使
ノ貨物ハ員債ノ為メ極当トス可カラサルコトヲ
決定ス賓克舍氏書ヲ著ハシ虎哥氏ノ論ヲ奉テ
亦其確實ナルコトヲ詳明ス

第二百三十一條 實心一千六百七十九年和蘭
宰相、出シタル外國公使ノ貨物ハ員債ノ為メ
其人其貨ヲ捕拿ス可カラザル公事ヲ註釋シテ
此公事、大要ハ虎哥氏ノ説ト異ナルコトナキヲ
論シタル也 實心論 公使ノ貨物ハ員債ノ為メ捕拿

宰相、檢全シ

ス可カラサルコトヲ 論 又一千六百八十年佛

國王其臣威内薩公使ノ貨物ヲ員債ノ為メ捕拿
シタル時大ニ其不当ヲ辯駁シ尔後此熱決ハ各
國從テ守ル所ノ例トシ然レモ是亦公使ノ權
利ヲ與フルニ過キタル似タル所アリ蓋シ貨物
ヲ捕拿スルハ其物ニ就テ論シ其人ニ就テ論ス
ルニ非ス貨主ノ權利事ニ從テ亦公使ニ讓ラサ
ルモノアリ

今茲ニ 實心 普國ノ論ニ答フル所ヲ取テ論ス可
シ夫レ一千六百七十九年ノ公事ニ拘タル公使

貨物トハ全ク公使ノ需用品ヲ指シテ謂フニ
 過キス公使ノ於テ公使ノ貨物ヲ負債ノ担当ト
 シテ捕拿ス可カラサルモノ也又公使ノ需用品
 ニ限ルナリ故ニ公使其職ヲ尽スノ需用品ニ非
 レハ必スシモ捕拿スルヲ得サルニ非ス然レハ
 則チ其捕拿ス可カラサルモノハ米穀酒類油類
 糧餉家器金銀飾具香類藥品衣類氈類車馬等ヲ
 謂フ而シテ公使高買トナリテ有スル所ノ貨物ニ
 至テハ負債ノ爲メ捕拿セラルルヲ免レサルナ
 シ又以上枚舉スル所ノ貨物ト雖モ公使其職ヲ

發得耳氏論

尽シ其館ヲ保ツ爲メニ非ス全ク已レ高利ヲ得
 シカ爲メ貯フル時ハ即チ捕拿ヲ免レサル可止
 第二百三十二條 發得耳氏公使ノ權利ヲ説ク
 所又實氏ト梘子異ナルナシ公使ト雖モ商事
 ニ係ル貨物ニ至テハ其捕拿ヲ免レス然レモ爰
 ニ二理アルヲ論ス其第二條ニ因テ即チ今日ノ
 事件ヲ決スルニ足ル可止第一若シ公使ノ公位
 ニ孰シ疑議ヲ生スル時ハ必ス公使ヲ重シシ公
 使ヲ助ケテ之ヲ決セサル可カラズ即チ若シ貨
 物実ニ公使ノ職ヲ尽シ居館ヲ保ツニ備フルヤ

或ハ其貨金、商業營利、為メニ 歸スルヤ其用
路更ニ ^分不明ナル時ハ必ス其事ヲ決スルニ公使
ヲ保肋セザル可カラズ蓋シ誤テ決スル時ハ公
使ノ權利ヲ破ル、恐レアレハナリ ^第二若シ貨
物ニ侵、各區ニ係ルニ非ス全ク其高率ニ屬ス
ル時ハ之ヲ捕拿スルヲ得其理蓋シム使ノ職掌
ニ干係セサルニ基キ所トス

第二百三十三條 普國政府以上ノ論ニ答テ云
ク今日ノ事件普國政府 果シテ 外國ニ侵ニ對シ
其人其貨ニ 孔テ管轄、權ヲ及ホシタル時ハ國

普國政府管轄

ヨリ公法ニ從テ之ヲ明認セサル可カラズ然レ
モ今日ノ事ハ全ク約定ヨリ起ル所ニシテ約定
ニ因テ雙方ノ權利ヲ決スルヲ當理トス然レハ
則チ之ヲ決スル必ス約定ヲ取捨ヒタル地方ノ
法律ニ由ラザル可カラズ即チ普國ニテ取捨ヒ
タル約定ハ普國ノ法律ヲ以テスル更ニ疑フ所
ナシトス

第二百三十四條 此兩國ノ事ニ遂ニ 業主曾テ
拘留捕拿スル所、貨物ヲ原主ニ 給還シム使亦
相當、~~假令~~ 破損ヲ俟ヒ以テ 雙方宜シク之

フ整理ス 第二百三十五條ヨリ同シク四十一條
至ル迄ニ員債ノ為メ公使ノ貨物捕
拿正否及覆論スルト至ル迄ニ
ル正否及覆論スルト至ル迄ニ

公使稅ノ細則

第二百四十二條 公使ハ其人其貨稅ヲ納ムル
其ノ及ヒ其家族自用ノ器具モ亦稅ヲ納ムル
ナシ然レモ現今各國ノ習慣ニ於テ其自用品ニ
至テハ之ヲ免ルスニ定限ヲ以テヌ又公使ハ往
來稅及ヒ郵便稅ヲ納ムサルヲ得ヌ而シテ其住ス
ル所ノ居館ハ總令ニ兵隊ノ其内ニ屯スルヲ准
ルサスト至モ其國ノ不動産ト一樣ニ稅ヲ納ム
サルヲ得ズ公使館ハ其自許アルニ非レハ總令

公使、使者

ニ巡查稅官等其館内ニ入ル能ハスト至モ然レ
モ各國現今ノ習慣ニ於テ此權利大ニ減制ス蓋
シ従前公使館ヲ以テ却テ犯人隱匿ノ場ト為レ
タルヲ以テナリ

第二百四十三條 各國ノ常例ヲ得スルニ公信
ヲ齎ラス公使館往來ノ使者ハ公使ト均シク犯
ス可カラズ使者友國ノ疆内ヲ過ルニ必ス査問
セラル、トナレ故ニ使者他疆通行ノ時ハ本國
ノ護身狀ヲ攜帶シテ其任職ヲ證セサル可カラ
ズ公使往來ノ郵船ニ至テモ同シク本國ノ免狀

ヲ領セサル可カラス又戦時ニ在テハ兩國協議
シテ免状ト共ニ自旗ヲ以テ敵船ノ阻碍ヲ防キ
海上ノ安航ヲ計ル可シ然レモ中立國駐劄ノ公
使ニ至テハ國ヨリ和平ヲ保持スルヲ以テ
ス故ニ中立國ノ船舶ニ托シテ自由ニ信ヲ寄ス
ルコト得ルニ敵船心ス之ヲ阻碍スルヲ得サル
ナリ

第二百四十四條 公使其使スル國ノ外更ニ他
國ヲ徑過スルニ當テ均シク公使ノ權利ヲ及ホ
シ其國ノ尊敬保護ヲ受テ可キヤ曾テ公使ノ論

公使に對して通行
スルノ論

スル所一ナラハ虎哥氏及ヒ賓克舍氏之ヲ論シ
テ云ク公法ニ於テ公使ヲ保護シ其犯ス可カラ
サルヲ認ルハ唯其往リ所ノ國ノ之ヲ遵守ス
從前佛國公使日耳曼ノ疆内ヲ徑過スル時兇殺
ニ過テテ時公使越克甫氏之ヲ論シテ云ク此事
國ヨリ兇殺ニ屬スト未レ公使ノ權利ニ就テ論
スル時ハ毫モ公法ヲ犯シタル所ナシ蓋シ疆内
無官通行ノ權利ヲ犯シタルモノニシテ唯其尊
嚴アルニ因テ庶民ニ凶スレハ其罪重シト為ス
ノ故ニ是ヨリ終ニ戦争ノ原因ト為ルモ已ム

ヲ得サルト虫に公法ニ於テ公使保護ノ條規ニ
觸ル、イナレ夫レ公法ニ於テ公使ヲ保護スル
ハ唯公使ヲ遣ル所ノ國ト受ル所ノ國トノ間ニ
行ハル、ノミ

第二百四十五條 發得耳氏云ク凡ソ公使其使
スル國ニ到ル途中他ノ殺國ヲ經過スル時ハ護
身狀ヲ攜帶シテ其職位ヲ告知ストフ至要トス
而ノ到ル所ノ國君特ニ公使ヲ尊敬シテ保護ヲ
加フルハ固ヨリ其國守ル可キノ義務ト為スト
虫氏然レモ亦經ル所ノ友國ニ於テ友國ノ使臣

ヲ款待スルノ禮格均シク異ナル可カラス公使
フレテ必ス十分ノ保護ヲ受ケシム可キナレ蓋
シ公使ニ^無禮ヲ加フトハ即チ其國ニ加フルニ
異ナラス其人ヲ捕レ其身ヲ傷害スルハ即チ使
臣ノ權利ヲ破ルニ異ナラス故ニ佛王其公使ノ
殺サレタルヲ以テ罪ヲ日耳曼ニ訟フトモ亦謂
レテト云フ可カラス然レモ日耳曼帝其事ヲ
受^テヤシヲ以テ佛王遂ニ裁奪ヲスル事ニ
智^ク已ムヲ得サルトス他人我カ疆内ヲ通行
スルニ害ナケレハ以テ之ヲ保護ス况ニヤ公使

君多ヲ奉レ一國ノ大事ヲ任レテ疆内ヲ經過ス
 ルニ於テヲヤ敬シテ宜シク保護セサル可カラ
 ス而シテ著シ疆ヲ過ルノ公使欺テ我カ國宮ヲ謀
 ルヲ疑フ時ハ即チ公使ノ通行ヲ許ルサ、ル丁
 ヲ得然レモ亦其明證ナキ時ハ國君公使ヲ傷害
 スル能ハス又他人ノレテ傷害セシムルヲ得
 ス故、疑ヒヤルトモ其明證ナクシテ通行ヲ禁
 スルヲ得サレ時ハ亦唯暗^陰ニ注意シテ宜シク隄
 防ヲ圖ルノ外術ナレトス又公使經過ノ權ハ友
 國ニ非レハ保護ヲ受ル能ハス一千七百四十四

年英佛戰爭中佛國公使普國ノ京城ニ駐劄シテ
 歸路敵ノ屬國阿諾威^{アノウイ}ヲ過ル時即チ擒トシテ英
 國ニ送ラレタレカ如シ
 第二百四十六條 實代云々公使其使スル國ノ
 外他國ヲ經過スル時ハ必ス地方ノ管轄ヲ受ル
 ニ暫ク奉テ居住スル外ハト異ナシトシ又回
 臥一千六百七十九年和蘭宰相ノ公帑ヲ解テ云
 ヲ其文中此國ニ奉テ駐劄シテ經過スル公使ハ其
 家僕器具ニ至ル迄テ地方ノ管轄ヲ受ケサレト
 アルハ即チ實ニ此國ニ奉ル公使ノミヲ云フ而

ノ其經過スルトアルハ別國ニ赴カシカ為ソ此
國ヲ經過スルム使ヲ云フニ非ス公使此國ニ駐
劄シテ此疆内ヲ去ラントスルム使ヲ指シテ云
フナリ

第二百四十七條 麥爾林氏云ク賓氏ノ以上經
過ノ語解ハ少シク附會ノ説ニ似タリ經過ノ語
ハ必スシモ某地ヨリ歸ルルヲ指シテ云フニ非
ス人某地ニ至テ其処ニ停ラズ他國ニ通行スル
モノヲ云フ故ニ疆内ヲ過ル公使ハ駐劄ノ公使
ト均シク独立ノ權初ヲ與ヘザル可カラズ一千

七百十七年瑞典ノ公使倫敦ニ駐劄シ將サニ英
國ニ宮ヲ圖ラント欲シ曾テ和蘭ヲ經過スル時
和蘭宰相英王ノ託ヲ受テ其公使ヲ捕縛セシメ
アリ然レモ宰相此處置ニ及ヒタルハ必竟公使
信翰ヲ示サ、ルニ出ル所トスレ然レハ則ケル使
他疆ヲ過ル時其公使タル保護ヲ受ケント欲セ
ハ先ツ其信翰ヲ示シ經過ノ許可ヲ得テ後テ疆
ヲ過ルル又例トス而ソ一旦此許可ヲ得ル時ハ公
使款待ノ義務其國駐劄ノ公使ト異ナルナリ
故ニ此許可アリサレハ則ケル使ト至ヒ尋常ノ

旅客ト曰視レ捕拿ス可キ罪ヲ犯セハ即チ捕拿
 スルヲ得ル^{ナリ}。庶民ト異ナリ^{ナリ}。
 凡ク公使ヲ侵ス可カラサレハ其明許黙許ヲ論
 スルナク其君親ラ比國ニ来ルト曰視スルニ
 アリ故ニ宜シク保護レテ以テ其尊位ヲ重シシ
 不敬勿ラシムルナク要ス爰ニ明許黙許ノ語ヲ
 用エルハ即チ公使其官職ヲ告知レテ後チ他疆
 ニ入ルノ許可ヲ得ルト案ニ曾テ比國禁令ナケ
 レハ又其来ルヲ黙許ス故ニ明許黙許ヲ論セス
 既チ其来ルヲ許ルス時ハ其君親臨スルト歟

宗教自由論

待ノ義務更ニ別ナシトス
 第二百四十八條 外國駐劄ノ公使ハ自ラ信ス
 ル所ノ教堂ニ在テ本國ノ教禮ニ因テ禮拜ヲ行
 フノ權和アリ然レニ駐劄ノ國法ニ因テ一般ニ
 フ准ルスニ非ズ近世政協天主教ヲ奉スルノ國
 耶蘇教ヲ奉スルノ國ト或ハ盟約シ或ハ習慣ニ
 因テ互ニ此權和ヲ准行ハ土耳其及ヒ巴巴里
 諸國ニ駐劄ノ公使領事ニ於テモ此權和ヲ得而
 ノ各國憲ヲ宗教ノ自由ヲ得ルニ至リ遂ニ公使
 駐劄ノ國ニ至テ自己ノ教堂ヲ造ルヲ准シシ独

リ本國ノ民ノミナラス同教ノ民皆来テ禮拜ス
ルヲ准ルレタリ唯其堂外ニ在テム然禮ヲ行
フヲ准ルサハルナリ

領事權初

第二百四十九條 領事ハ視テ公使ト為サス故
ニ地方ノ法律習慣或ハ盟約ニ因テ特權ヲ與フ
ルト由公法ニ於テ公使ノ權初ヲ與フルモ
ニ非ス又領事ハ盟約ヤルニ非レハ駐劄ヲ准ル
サス其往々所ノ國君ノ委任狀ヲ携テ其國ニ駐
ルモナリ故ニ領事善シ不正不道ノ舉動アル
時ハ其免狀ヲ奪ヒ駐ル所ノ國律ニ照ラシテ処

論 公使職ノ放ル

罰レ或ハ其國ノ便宜ニ從テ其本國ニ送附スル
1ヲ得領事ハ民事刑事共地方ノ管轄ニ從ヒ他
國暫寓ノ民ト異ナリトシ
第二百五十條 公使他國ニ駐劄シ或ハ各國ノ
公會ニ赴キテ其職ヲ離ルルノ故セアリ
其一 公使任職ノ期限滿テ或ハ代理シテ本官
来ル時此ニ例ニ於テハ特ニ本國ノ召田ヲ要セ
期出サルナリ
其二 公使特ニ遣發シ而シテ其任事ヲ遂ケ或ハ
遂ケサル時

其三 公使本國ノ召回ヲ受ル時

其四 公使本國ノ君主或ハ其駐ル所ノ君主薨
ニ或ハ國君位ヲ讓ル時此ニ例ニ於テハ必ず公
使ノ信翰ヲ改メサルヲ得ス但其事本國ノ君主
ニ係ル時ハ時トシテ我々嗣君曾テ駐ル所ノ君
ニ書ヲ寄セテ先君ノ信翰ヲ用ユルヲ又若
シ其事駐劄ノ國君ニ係ル時ハ信翰ヲ改メテ新
君ニ呈セサルヲ得ス然レニ若シ本國ノ新君未
タ来ラス公使暫時欠負トナリ然ルニ既ニ開
所ノ議事アリテ其事尚ホ未タ決セサル時ハ先

任ノ公使ヲ信シテ其議ヲ完結ス可シ

其五 若シ公使公法ヲ破リ或ハ穢事ニ與テ測
ラサル大事ニ遇ヒ自ラ其責ニ任シテ職ヲ辞ス
ル時

其六 公使無狀ノ行ヒアリ或ハ其本國ノ處置
ニ因リ駐ル所ノ政府本國ノ召回ヲ俟タス送
出スルヲ欲スル時

其七 公使位官轉任ノ時
以上七例ノ何レカニ因テ公使其職ヲ離ルル時
ハ公使其本國ニ歸着スル迄テ尚ホ其權利ヲ失

ハサルナリ

第二百五十一條 本國政府ヨリ公使ニ送ル召
 回ノ書ニマリ其一遣使ノ旨趣成就シ或ハ成ラ
 サル時其二兩國互誼ノ交際ニ涉ラサル~~ハ~~
 召回スル時比ニ故ニ因テ公使駐劄ノ國ヲ辞ス
 ル時ハ其曾テ来ル時ト~~同格ノ例ヲ以テス~~ 款接ノ~~例~~ 異ナルナリ
 即チ公使本國ヨリ来ル召回状ノ副本ヲ外務省
 相ニ呈シ歸國ノ為ノ國君ノ朝見ヲ乞ヒ而シテ
 君ニ朝シテ即チ召回状ノ本紙ヲ呈シ以テ歸國
 ノ程詞ヲ演ルナリ

若シ兩國ノ政府不和ニシテ公使其國ヲ去ル時
 ハ或ハ本國ヨリ召回状ヲ寄スルナリ或ハ其
 書ヲ俟タスレテ其國ヲ離ルナリ或ハ公使
 朝見ヲ乞テ辞スルナリ或ハ國君ヨリ朝見ヲ
 准ルスナリ此等ノ事皆其時ニ從テ以テ決~~定ス~~
 若シ公使等級ノ昇降アリテ或ハ二等三等ノ使
 臣一等使臣ノ昇轉シ或ハ一等使臣期限満チテ
 二三等ノ使臣ニ降~~リ~~駐劄スル時ハ召回状及
 び新任ノ信翰ヲ改メテ外務省相ニ證明ス

若し公使卒スルニ因テ其任ヲ了ル時ハ禮ノ如ク之ヲ埋葬シ或ハ本國ニ送テ葬ルヲ得但宗教ノ外禮ニ至テハ宣シク其地ノ法律習慣ヲ照ラシテ行フ可シ又公使ノ遺產ハ附属ノ書記之ヲ封緘シ若し書記アラザン時ハ友國ノ公使代テ之ヲ封緘ス己ムヲ得サレ時ニ非レハ地方官ニ管ルノ權利ナシ公使ノ動産遺囑継受等ノ各件ニ至テハ悉ク其本國ノ律ニ照ラシテ決定シ而シテ公使ノ遺產ヲ本國ニ送ル時ハ疆ヲ出シ稅ヲ收ムルヲ得本國ノ律ニ照ラシテ公使死ス

ル時ハ其萬權後ニ絶滅スルト余ハ各國ノ習慣ニ於テ死後暫ラシ其寡婦家族後僕等ニ公使存命中享ル所ノ權利ヲ得セシムルヲ例トス凡ソ公使本國ニ歸リ或ハ賀事等アル時ハ禮物ヲ贈ルヲ例トスル國アリ或ハ此ノ如キ禮物ヲ受ルヲ禁スル國アリ從前威内薩ウエイナイノ如キハ堅ク禮物ヲ受ルヲ禁スルノ例ヲ守リ現今本國ノ法律ニ於テモ亦然トス

萬國公法卷之六畢

司
法
省

司
法
省

三
言
法
卷

